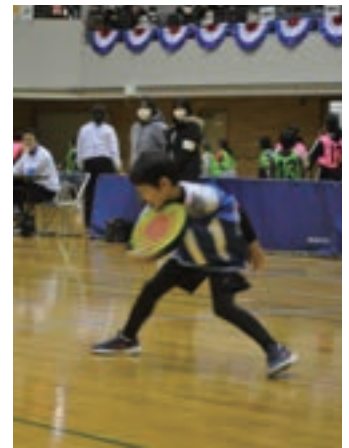




# 少連協ニュース

○発行/足立区少年団体連合協議会 〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275  
○発行人/山本輝夫 ○編集/調査広報部 鈴木(健) 大関 川田 小澤 田中 市川 高橋 川下 山岸 辻村 岩井 熊澤

目次	山本会長あいさつ・・・P1	青少年表彰者・・・2P	都子連50周年表彰・・・3P
	キャンプ・・・P2	ジュニアリーダー研修会・・・3P	課長(コロナ禍における)・・・4P
	第6ウォークラリー・・・P2	都子連50周年記念誌・・・3P	編集後記・・・4P



## 変化の適応



足立区少年団体連合協議会  
会長 山本輝夫

児童の響く声は朝に相応しい。登校する児童はマスク越しに「おはようございます！」と声をかけ合う。校門には笑顔で先生方が出迎え、なかでも丁寧に立ち止まり挨拶を交わす児童には感銘する。子どものパワーが清々しい気分にしてくれる貴重な時間だ。

さて、子どもの表情を覆い隠すマスクの不要は何時か気がかりです。不透明の中で、子どもたちのマスク着用は感染拡大防止マナーとして確り身に着けている。新様態を素早く受け入れ、様々なマスクで装う子どもの適応力は実にスマートでたくましい。

COVID-19は世界中を混乱に陥れている。人類は地球の再生能力を超えて自然破壊を進めてきた。未来を担う子どもたちから責任を問われている様にも思える。世界規模で史上最大の苦難に遭遇している私たちは「未来」を真摯に受け止めなければならない。

新型コロナウイルスの感染拡大防止は人類の叡智が試されている。様々な犠牲を強いられている。こと我々は子どもに関わる組織として子どもの命を救うことを大切にしなければならない。「出来るときに、出来ることを、出来るだけ」心を砕けるかに架かっている。

令和2年度の事業は縮小・延期・中止とストレスの多い一年でした。体験と共に、新たな学びを生かし希望をもって進んでまいります。皆様のご支援ご協力に心から感謝申し上げます。



▲地引網み体験



▲地引網み投げ入れ

# 自然体験・交流キャンプで地引き網を体験しました。

文部科学省からの受託事業で、自然の中で集団生活を通して、様々なことを学び、体験する、をねらいに、中学1年生12人、2年生4人、ジュニアリーダーや青年リーダー5人、看護師を含む同行役員9人の参加により、令和2年11月21日から23日まで『あだち自然体験・交流キャンプ』を足立区立鋸南自然の家で実施しました。

新しい生活様式の中での交流キャンプでは、グループワーク、ナイトハイク、キャンプファイヤー等のプログラムがあり、参加中学生は、新聞ドームやビーチボールバレー大会などを通して、友だちとのチームワークの大切さを改めて自覚する機会となったようでした。  
最終日は晴天に恵まれ、富士山、伊豆半島や大島が一望できる岩井海岸で、地引き網も体験し、獲れた大きなタイや小魚に中学生から楽しい思い出ができたと思いが感じられました。



コロナ禍のため、会場には区分ごとに数名が参集し、受賞者を代表して、JLクラブ代表の大塚琴音さんが知事に答辞を述べました。  
答辞では、学業だけでなく、ボランティア活動にも積極的に参加できる環境を与えてくれている、ご両親への感謝の言葉がありました。  
受賞された皆様には、心よりお祝いを申し上げるとともに、さらなるご活躍を期待いたします。

令和2年11月9日に「東京都青少年健全育成成功労者等表彰式」が東京都庁第一本庁舎で行われました。  
少連協からは3名の方が受賞されました。【敬称略】

## 東京都青少年健全育成成功労者等表彰式

- ◆東京都健全育成成功労者  
市川 元一 第三地少協会長  
大塚 悦子 新田地少協会長

- ◆東京都模範青少年  
大塚 琴音 JLクラブ代表



▲受賞した大塚琴音さん



▲全問正解できたかな？



▲次の問題は何か？

### 秋空の下

## ウォークラリーが行われました

令和2年11月15日の日曜日、都立舎人公園で足立区第六地区少年団体協議会がウォークラリーを開催しました。秋の青空の下、色づいた木々や穏やかな空気の中で、親子12組、33人がイラスト地図を頼りにポイントを巡り、クイズに挑みながらウォークラリーを楽しみました。

クイズは「夕日の丘の売店」での舎人名物は何と呼ばれていますか。「日暮里舎人ライナー」で「舎人公園駅」は何番の駅ですか。「園内の注意看板の『防災キャラクター』の名前は何か。」等々15問あり、参加者の皆さんは歩を進めながら苦闘した様子でした。全チームが1時間半ほどで集合場所へ戻ったところで、クイズの答え合わせがあり、残念ながら全問正解の親子はいませんでした。参加者の皆さんは、お弁当とおやつを受け取り、ニコニコ顔で改めて公園内の散策に移り、健康的なひと時を過ごした一日でした。

# 令和2年度 ジュニアリーダー研修会



今年度は、5ヶ所（梅田地域学習センター・宮城ゆうゆう公園・江北地域学習センター・東和地域学習センター・スィムスポーツセンター）の会場で12月6日から、2月14日まで行う予定で、12月6日に第1回目のジュニアリーダー研修会が開催されました。そのうちの1会場の宮城ゆうゆう公園では、午前18名、午後16名が参加しました。お天気も良く、かまど作りをして、薪で湯沸かし研修も順調に出来ました。レク遊びも広い公園でのびのび出来ました。

※今年度のジュニアリーダー研修会は1月10日から全会場とも開催中止となりました。

これは、令和2年12月頃からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大が見られ首都圏をはじめ、全国的に不要不急の外出や多人数での集まりなどの自粛を求められたためです。



▲宮城地区ジュニアリーダー研修会

# 江北地区ジュニアリーダー研修会

令和2年12月13日（日）、足立区少年団体連合協議会江北地区ジュニアリーダー研修会が江北地域学習センター体育館で開催されました。

上沼田、江北、鹿浜、第八地少協の役員10名、足立ジュニアリーダークラブより5名が運営に参加しスムーズに受付、検温、手続きが進みました。

今年はコロナ禍の中で参加出来る生徒も5・6年生に限定したことで予想より人数が少なく10人弱と小規模の研修会になりました。

地元地区会長の合図で午前9時30分より始まり、担当少連協副会長の挨拶があり、その後3人の講師により進行されました。

子どもたちは最初知らない者同士、話しも出来ない感じでしたが、講師から「大きな声で自己紹介をしてください」と言われると一人ひとり出る限りの声で挨拶をしました。

その後は、肩から力が抜けたのか少々会話が出てきました。

午後からは運動をしながらゲームを中心に進められて子ども達の顔に笑顔が見えて大きな声が響くようになり本来の子どもたちの姿に戻ったようでした。

参加者が少ない研修会ですが講師の進め方で、助手・ジュニアリーダーを上手く動かして子どもたちに楽しさを与えてくれました。

今回は複数の地区による研修会で、運営上は広範囲の方が効率良いと感じましたが、参加希望の子どもたちにとっては近い会場が理想だと思えます。

コロナ禍の終息が問題になりますが前年度のような開催出来ることを強く期待します。



▲江北地区ジュニアリーダー研修会

# 都子連が 創立50周年 を迎えました

足立区少連協が加盟する東京都子ども会連合会は子どもの健全育成を願いつつ昭和46年7月に発足し、これまで活動を重ねられ、令和2年に創立50周年を迎えました。現在、都子連には41団体の加盟があり、今後とも様々な事業でご助言をくださり、私たちの良きリーダーとして益々発展されることを期待しております。

この度、都子連では創立50周年記念誌を創刊し、足立区少連協も紹介されています。



都子連創立50周年にあたり、足立区少年団体連合協議会のみなさんが次のとおり表彰されました。



▲足立区少連協も紹介された都子連50周年記念誌

### ◆個人

野辺 陽子 大林 英夫  
山崎 金寿 鈴木 健治  
山本 輝夫 下島 泰則  
鈴木 春男 内山 美保

### ◆団体

【子ども会】  
長門南都子供会  
足立ジュニアリーダークラブ  
【指導者組織・育成者組織】  
第五地区少年団体協議会  
中川地区少年団体協議会  
押部子供育成会

### ◆功労者感謝状受賞者

菅原 紀和

(敬称略)

# コロナ禍の中でも子どもたちは成長する！ その見守り、育成について

令和 3 年 2 月 17 日に足立区教育委員会を  
訪ね、現下のコロナ禍にあっても、児童青  
少年のため様々な事業を推進されている子  
ども家庭部青少年課長にお話を伺いまし  
た。

コロナ禍の中でも子どもたちは成長す  
る！その見守り、育成について



▲下河邊課長

## 足立区の基本的な考え方

「足立区教育振興ビジョン」があります。  
コロナ禍にあつては、大人も子どもも戸惑

うことばかりだと思えますが、こうした  
混沌とした中であつても「教育振興ビジ  
ョン」に掲げる基本理念「夢や希望を信  
じて生き抜く人づくり」また、子ども達  
を豊かに育むための支援、家庭・地域と  
の連携等は全く変わらないものと認識し  
ております。

## コロナ禍にあつても子どもたちには

教育振興ビジョンには 5 つの施策があ  
りますが、5 つ目の施策「子ども・若者  
が社会と関わる力を育むための支援」に  
おける「多様な体験と活動の提供とその  
充実」「家庭教育支援の充実」これらの  
推進には、まさに、少年団体連合協議会  
を始め地域の皆様に多くを担って頂いて  
おります。今は、これまで当たり前だっ  
たことが出来ない状況ですが、発想の転  
換や工夫で新たな道を切り拓くことは必  
ずできると思えます。

青少年課事業について言えば、体験事業  
はリモートに切り替えて実施し、子ども  
達の学び・経験の効果については今後検  
証していく予定です。また、百人一首大  
会等は、通常開催を中止としましたが、  
その代わりにお家で楽しめる企画に変え  
ていきます。もちろんこれまでの支援には  
遠いですが、子ども達が夢・希望を持ち  
続けられる支援への不断のチャレンジが  
重要だと考えます。

## 見守り・育成の地域や団体に望まれるこ とは

昨年度末から、地域でもほとんどの事  
業が中止され、何か出来ることはないか  
と思いを巡らせても実現に至っていない  
のが正直なところだと思います。学校で  
はモバイル端末の配備を進めています  
が、今後は、双方向、また、複数でのコ  
ミュニケーションをリモートで行うこと  
が日常になっていくことが想定されま  
す。これまで、地域の見守り・育成は実  
体験によりましたが、ICT の活用によ  
る展開も考えなくてはならない時期に來  
ているのかもしれない。未知の世界に  
足を踏み入れるには躊躇もあり、機器の  
使用は難しい部分もありますが、これは  
避けては通れない道だと痛感いたしま  
す。

## 結びに

令和元年度ジュニアリーダーキャンプ  
には実に 187 人と定員を大きく上回る申し  
込みがありました。3泊4日のキャンプ  
で、子ども達は日頃できない経験を通し  
て何かに気づいたり、或いは見つけたり  
して一回り大きく、よりたくましくなっ  
て帰ってきます。昨年の冬キャンプのア  
ンケートでも自己肯定感アップや感謝・  
共助の気持ち芽生えたことが確認され  
ました。この意義深いキャンプを支える  
スタッフは約 50 人、準備段階から皆様に  
は本当に手厚くご貢献頂いております。  
その情熱、子ども達に寄り添うお気持ち  
をどう形にしていけるか、コロナ禍にお  
ける支援のあり方を共に考えてまいりた  
いと存じます。

## 編集後記

今年度は、コロナ禍で始まりコロナ  
禍で終わった一年。  
ほとんどの行事が中止になり、いつ  
なら？何なら？できるのか！感染対策  
をしながら、手探りの中の活動とな  
りました。  
大人になれば毎年似たような一年で  
すが、子どもたちにとって、その学年  
の一年は二度とない貴重な時間です。  
来年度には子どもたちが有意義に過  
ごせるような活動をしていきたいと思  
っております。  
皆様のご理解・ご協力をお願いいた  
します。

